

「活用する力を育てる学習指導のあり方」  
～基礎的・基本的な知識及び技能の習得を通して～

1. 設定理由

全国学力・学習状況調査において基礎的・基本的な知識・技能の習得については一定の成果が認められているものの、それらを活用し、思考力・判断力・表現力を問う読解力や記述式の問題に課題があるとされている。その原因はどこにあるのか。これらの力は、本年度より完全実施となった新学習指導要領で重視され、刻々と変化するこの社会で生涯にわたって子ども達がたくましく生きていくのに必要不可欠な力であることから、学校教育において大きな課題と言えよう。

昨年度までの「思考力を高める学習指導のあり方」についての研究を受けて、本年度は、思考力・判断力・表現力を高めるために、「基礎的・基本的な知識及び技能を習得させること」とそれらを「活用する力を育てること」の二つのことに着目した。そこで本年度は、「活用する力」を育てることを目指し、その前提としては、基礎・基本の定着を一層図っていくべきであるという研究の方向性が決まり、「活用する力を育てる学習指導のあり方」を主題として研究に取り組んだ。

2. 研究仮説

知識及び技能を確実に習得させ、使う場や課題を工夫すれば、既習事項を発展させたり、応用したりすることができるようになり、活用する力が育つだろう。

3. 研究内容

本テーマに対して、小学校では第6学年理科、中学校では第2学年数学科の授業実践を通して、活用する力を育てる学習指導のあり方を探っていく。

4. 結論

- ・習得と活用の場面を指導計画に位置付け、意図的に指導しよう。
- ・学習の足跡を残し振り返らせ、既習事項を使わせよう。
- ・活用する場面を意図的に設定し、学ぶ必然性や学習の見通しをもたせよう。
- ・習得と活用の学習過程の連続性を生かし、基礎・基本の確実な定着を図ろう。
- ・言語活動を充実させ、課題解決の根拠となる事柄を把握させたり、「活用の仕方」を学ばせたりしよう。